遠野市のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた動きをお知らせする

遠野のCS

かわらばん

第９号
R6.3.14
発　行

【発行】遠野市教育委員会市民センター生涯学習スポーツ課 ☏62-4413　Mail gaku-spo@city.tono.iwate.jp

これからの学校と地域の連携・協働に向けて意見が交わされました
～今年度締めくくりとなる学校運営協議会・学校部会を開催～

今年度の締めくくりとなる学校運営協議会そして学校部会※1が、この１月から２月にかけて、市内全ての小・中学校で開催されました。

今回の学校運営協議会と学校部会は、学校関係者評価※2、今年度各学校を中心に行われた地域学校協働活動※3の振り返り、そして、来年度に向けた取組の方向性の３点が話し合いのテーマとして設定されており、学校部会ではそれぞれの学校を中心に、学校運営協議会では「中学校区」というエリアと子どもたちが小中学校で育つ「９年間」を意識し意見が交わされていました。

遠野東中学校区学校運営協議会の様子。委員一人ひとりからさまざまな視点から発言が見られました。

このうち、２月20日に行われた遠野東中学校区学校運営協議会（佐々木謙会長）では、学校関係者評価や各学校部会の話し合いの状況を踏まえて「『あいさつ』については、各校一生懸命取り組んでいるが、子どもたちが、学校の外に出たときの様子が『課題』として共有されている。これから地域と学校がよりつながっていくうえで、きっかけとなるのは『あいさつ』。子どもだけではなく、保護者や地域とともに取組を初めてみてはどうか」との意見から、来年度は「『あいさつ』を重点に取組を進める」という中学校区としての方向性が確認されていました。

なお、それぞれの学校運営協議会と学校部会で今回話し合われた内容は、来年度の学校経営の計画及び地域学校協働活動の具体的な取組に生かされることとなっており、具体的には、次回の令和６年度第１回目のそれぞれの会議で協議されることになっています。市教育委員会では、様々な媒体を活用し、協議の内容をお知らせすることができるよう努めていきます。

■　学校運営協議会・学校部会で出された意見から

学校で取組を進めていくうえでは、先生が「こうしたい」「こうなってほしい」ということを、地域がきちんと理解したうえで、子どもたちと関わらなければいけないと思う。

「中学校区」で話し合うことで、自分の学校やPTAだけでは知らなかったことを知ることができ、これからの活動に参考になる。

様々なアンケートから、保護者の意識も変わってきている。取組や活動を行う「意義」や「目的」を改めて伝えたり確認したうえで行わなければならない。

（保護者の方から）様々出されている子どもたちの意見は、親の姿を映し出しているのではないか。あいさつ、読書、手伝い、スマホなどのメディア。まずは、家庭で取り組むこと、自分を律することが大事であると改めて認識した。

学校からお願いをされることは、地域にとってうれしいこと。地域で「できることはないかな」と思っていても、地域は立場をわきまえているために関わることができず、結果距離が生まれているのではないか。学校から「手伝ってほしい」と言われると快く協力してくれる。

※１　**学校運営協議会・学校部会【がっこううんえいきょうぎかい・がっこうぶかい】**…法律に基づき、学校の課題や運営の状況について正しく理解し、その解決や改善、一層の充実に向けた方策を協議する機関のこと。本市をはじめ、多くの市では「コミュニティ・スクール」と呼ぶ。本市では、「地域と学校の諸課題の解決と遠野のふるさと教育の推進等を図り、子どもたちの『生きる力』を地域総がかりで育み『地域とともにある学校づくり』と『学校を核とした地域づくり』を目指す」こととしている。なお、本市では、学校運営協議会は中学校区で、学校部会は、各学校単位でそれぞれ設置している。

※２　**学校関係者評価【がっこうかんけいしゃひょうか】**…保護者、地域住民などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換を通じて、その学校の教職員による自己評価の結果について評価すること。本市においては、学校運営協議会及び学校部会を「委員会」に位置付けている。

※３　**地域学校協働活動【ちいきがっこうきょうどうかつどう】**…地域の幅広い住民等の参画を得て地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるために、地域と学校が相互協力のもとで連携・協働して行う様々な活動のこと。本市で行われている主な活動は裏面で紹介しています。

地域で子どもを育てる活動発表会で今年度の実践を共有しました

１月13日、遠野市民センター大ホールを会場に、地域で子どもを育てる活動発表会を開催しました。ＰＴＡやコミュニティ・スクールの委員など約200人の参加のもと、今年度の事例発表を通じ、推進における成果と課題を共有しました。

このうち、遠野西中学校からは「中学校区で取組むコミュニティ・スクールに向けて～遠野西中学校区の『熟議※4』の事例から～」と題し、11月に学校運営協議会委員を始めとした地域の大人に加えて遠野西中学校の生徒も参加し行われた「熟議」の事例が紹介されました。発表では、５月に行われた第１回学校運営協議会で出された意見を基に、西中学校区でどのように子どもたちを育てていくのか、何をしていくのかを整理するために「熟議」を取り入れたという経緯と、実施したことで「話し合いを通じ、子どもの力や可能性を大人が理解するとともに、大人が元々持っている力や思い、願いを子どもたちが引き出した」など、取り組んだ成果が共有されました。また、今後の課題・展望として、今回の「熟議」を教育委員会とともに連携のうえで分析し、さまざまな教育活動に向けて活用していくことが挙げられていました。なお、事例発表では、遠野西中学校区の発表に加え、遠野中学校のキャリア教育の事例、土淵町まちづくり協議会による放課後の学習場所の設置についての事例も紹介され、参加者からは「多様な実践を学ぶ良い機会であった」などの感想が寄せられました。

遠野西中学校区で行った「熟議」について発表した、菊池校長、多田生徒会長、冨田生徒会副会長（写真左から）。生徒からも「熟議」に参加した感想を発表いただきました。

また、事例発表の後には、「わかる！できる！子どものゲーム・スマホ利用と保護者の取り組み」と題して、子どもたちのインターネット利用について考える研究会事務局の高橋大洋氏からご講演をいただき、参加者から「講演を聞いて、情報メディアとの関わり方を子どもとともに学び、子どものために取り組みたい」などの感想が寄せられました。市教育委員会では、今回の事例発表及び家庭教育講演会を次年度以降の取組に生かしてまいります。

このたび、家庭教育講演会の様子について、市ＰＴＡ連合会が広報紙として会員に配布したものを市ホームページに公開しました。右記のＱＲコードからもアクセスできます。

※４　**「熟議」【じゅくぎ】**…①関係する地域住民や教職員など、多くの当事者が集まり、課題について学習及び熟慮し、議論をすること。②目標の共有や課題解決等を目指す話し合いの手法のこと。コミュニティ・スクールの推進には有効とされており、本市においてはコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた基盤のひとつとして位置付けている。

遠野市で行われている主な地域学校協働活動を紹介します

1＿遠野中学校の「遠野人から学ぼう」。学校部会の協議を基に地域の大人が生徒に経験等を伝えました。**2**＿綾織小学校で行われた「あいさつ運動」。「あいさつの良さ」を地域とともに育みながら、地域の大人の顔を子どもたちが知る機会にも。**3**＿遠野西中学校区の「熟議」。**4**＿上郷小学校の「ミシンボランティア」。地域の方の力を借りて子どもたちが安心して学んでいます。**5**＿青笹小学校で行われた「本棚の修繕活動」。学校部会の協議で出た悩みにＰＴＡが呼応。会員の力を活かして解決しました。**6**＿鱒沢小学校で行われた「環境整備活動」。ＰＴＡの作業で手が行き届かないところを地域の方々がサポート。あっという間にすっきりした環境が整いました。**7**＿一日市商店街を中心に行われた遠野小学校「児童の見守り活動」。子どもたちが活動しているときに地域の方が子どもたちの安全を見守ることで、先生の心身の負担の軽減につながりました。